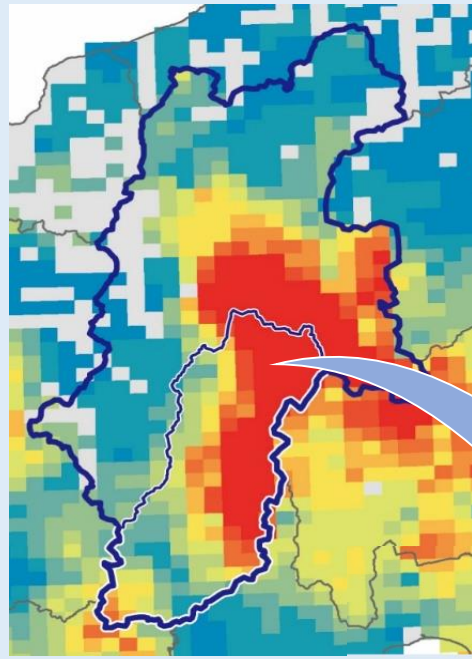


### 1 ニホンジカの現状

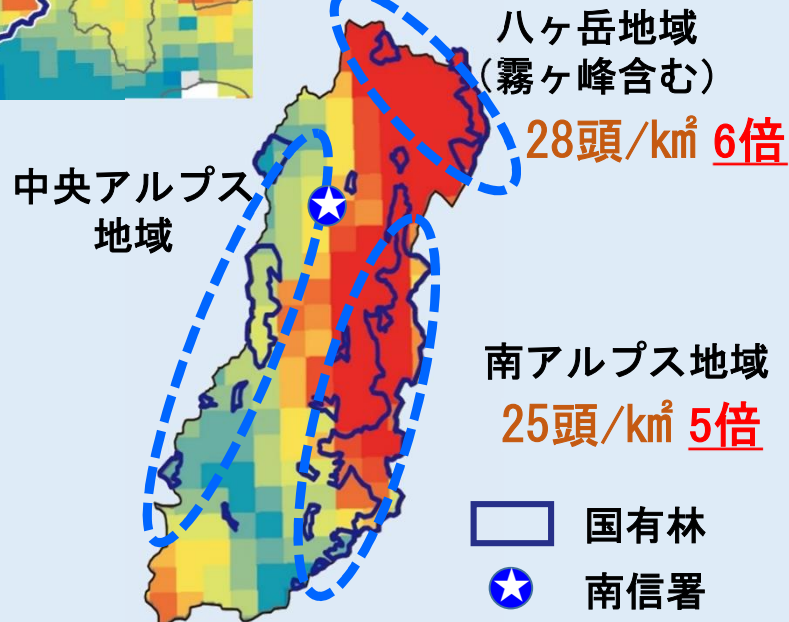
## ニホンジカ生息状況

長野県内推定生息頭数 (R元) **216,795頭**



### 生息密度分布図

注) 環境省のガイドラインによると農林業被害があまり大きくなならない密度は平均値で1~2頭/Km<sup>2</sup>、自然植生にあまり目立った影響がでない密度は平均値で3~5頭/Km<sup>2</sup>以下とされています。



### 2 南信森林管理署の取組

南信森林管理署では、ニホンジカの被害の低減に向けて、地方自治体、猟友会、野生鳥獣対策協議会、学識経験者等と連携するとともに、国有林野事業を実施する事業体にも協力していただき、国有林内での捕獲等の対策を積極的に推進しています。

#### 1. 防護柵等の設置

人工林や山腹の治山施設を保護するための防護柵や、関係機関・地域ボランティア等と連携し、希少植物を保護するための防護柵を設置しています。



#### 2. ニホンジカ捕獲駆除業務委託事業

各猟友会へニホンジカの捕獲駆除を委託し、個体数調整を実施しています。令和5年度は、下諏訪猟友会、伊那市猟友会、中川村猟友会、宮田村猟友会と業務委託契約し、62頭を捕獲。

#### 3. 地域や猟友会及び事業体等との連携捕獲

自治体、猟友会との協定、関係協議会・市町村等へくくりワナの貸出による捕獲支援、捕獲委託を行っています。

##### ・ついで見回り・通報

ワナ見回りの負担を軽減するため、猟友会と請負事業体との基本合意に基づき、請負事業体が国有林内に通勤等のついでにワナの見回りを実施し、ワナにかかっているニホンジカ等を発見した場合、猟友会に通報し、捕獲する取組みを実施しています。

##### ・くくりワナの貸出し

積極的に捕獲を推進していただくため、借受を希望する市町村へはワナの貸出しも行っています。(R5年度:くくりワナの貸出し11市町村・530基)

#### 4. その他(職員実行)

鳥獣の保護や狩猟に関する制度及び獣害対策に関して、狩猟に関する法律や猟友会による実技などを学べる講習会等を通じ、知識や技能の向上を図りつつ、職員による捕獲を実施しています。

職員数の減少などから近年の捕獲実績は減少傾向にありますが、錯誤捕獲に配慮しつつ、ニホンジカによる被害の低減等に努めています。

見回りの労力軽減としてICTを活用した通信機器の活用を推進しています。



### 3 技術開発（ブロックディフェンスを利用したくりワナ捕獲）

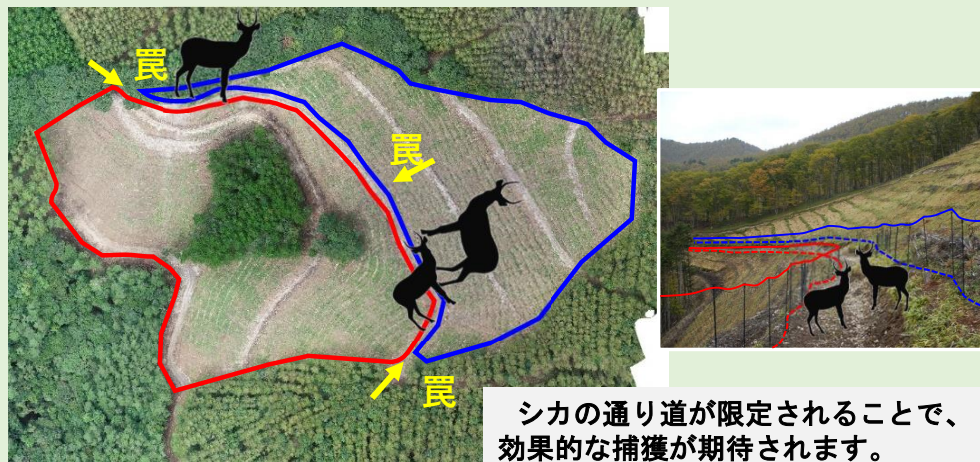
効果的な防除対策を推進するため、技術開発等に取り組んでいます。

造林地の防護柵を設置する際、木材搬出で使用した作業道にシカの足跡が多くみられたことから、この獣道を遮断しないように防護柵を2ブロックに分け罾を設置しました。



ブロックディフェンスとは

獣道や作業道など、シカの通り道を遮断せず、残置し、小面積の区画（ブロック）に分けて囲い、シカ等の通行の障害を行わないシカ柵の設置方法となります。



シカの通り道が限定されることで、効果的な捕獲が期待されます。

メリット

- ①防護柵が破損した際のリスクの分散
- ②シカによる防護柵への干渉を防ぎ、防護柵の破損等の低減の効果が期待できる。

捕獲！

捕獲率の向上に期待



### 4 新たな誘引捕獲法の普及

#### 小林式誘引捕獲法の現地検討会の開催

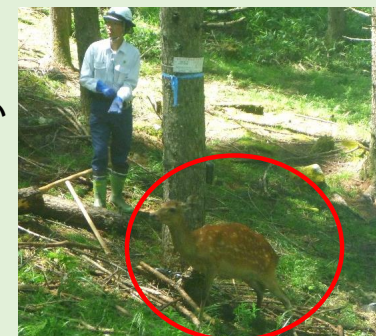
長野県、関東農政局、地元市町村、猟友会等関係者を含め総勢56名が参加し、下諏訪町内の国有林にて現地検討会を開催しました。

2日間の日程で開催し、初日は小林式誘引捕獲法の説明、実演の後、参加者が5班に分かれ実際に設置を行いました。翌日は2頭のニホンジカがかかり罾見回りにおける留意点、止め刺しの解説、実演を行う内容となりました。



#### 小林式誘引捕獲法のメリット

- ・誘引捕獲のため、獣道に設置する必要が無い
  - 錯誤捕獲の低減
- ・罾の周囲に石を設置
  - 罾の外縁を踏まず、空はじき防止



#### 成果の公表

今後の主伐・再造林を確実に実施するため引き続き獣害対策に取り組み成果を地域全体に広く普及できるよう情報発信等努めています。

